

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372400485		
法人名	株式会社ゴールドサービス		
事業所名	グループホーム長寿の郷 邑久		
所在地	岡山県瀬戸内市邑久町福中1047		
自己評価作成日	令和6年2月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和 6年 2月 27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季折々の花に囲まれ、山の木々も目に入り自然の中で季節の移り変わりが感じながらの生活ができるよう環境を整備しています。各居室は個人様の家としてプライバシーの配慮と生活が確保されています。また、職員は一緒に生活をする家族としての考え方で利用者様に接し毎日を楽しく過ごしています。そして管理者もまた全ての利用者様に接し、安全と健康状態を確認し同時に職員との意見も交換し日々のケアの計画に役立っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

窓から見える景色は四季折々の花や木々に囲まれ、自然豊かな環境で季節の移ろいを感じ乍ら過ごしている。敷地内には「長寿の園」と名付けた庭園が広がり、「里のこみち」を散策している。「ベジタブル農園」と称し様々な野菜や果物を栽培し、食卓に上り全員が美味しく頂いている。ネパールからの留学生を受け入れ、高齢化した施設が、若い人の熱気や刺激を受け、明るく、元気な日々の活性化に繋がっている。ホールには、季節毎に歳時記に合わせた人形等が飾られ、季節のイベントを楽しんでいる。長い廊下で歩行訓練し、安全安心を確認し乍ら、健康や体力強化に繋がっている。長寿の郷邑久は家庭と位置付け、穏やかで、寄り添うケアを心掛けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有、実践できていると思う。	「尊厳の確保」「施設は家庭」「規律の遵守」の三本柱を基本理念とし誰もが良く見える所に掲示し全員が共有しより良いケアの実践に繋がる様常に目標としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	約3年半コロナ禍にあった為、地域との交流も減少してしまい今後徐々に再開させていくように取り組みを強化したい。	コロナ禍でイベントの開催は難しいが近くの公園で地域の人も参加し、お花見をしたり町内会に入会し溝掃除等地域の行事にも参加している。ゴルフ場のカフェでお茶を飲みお喋りし地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近頃は実践できておらず、今後取り組みを強化していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にあった事もあり近年では実施できていない。今後は再開し以前のように年に3~4回程度の取り組みを目指す。	ゴルフ場の会議室を借りて運営推進会議を開催している。コロナ禍以降十分な事は出来ていないが地域の理解と支援を得る機会と捉え開催に向け努力している。3月に運営推進会議を開催する予定で行政と相談している。	年6回の運営推進会議を目指しているのですが、行政の参加があっても目標に届いていない様なので、まず最近の自然災害等の対応についての意見交換から出来ればと期待しています。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡事項等は直接関係各所に出向く様している。	市町村とは、共働関係と言う事で、何度も足を運び相談したり助言を頂き乍ら、関係作りをしている。介護相談員の訪問もあり入居者もおおきく話を聞いて貰っている。事故報告もしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一部ご家族様と契約を締結し、車いす乗車時には一時的にベルトをする事がある。	身体拘束をしない方針で、ケアを工夫、実践している。車椅子からずり落ちる人にシートベルトをする事があるが、本人や家族に説明し同意を頂いている。更新時や変更時には継続や見直し等その都度話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞記事やニュース等にて他施設での事例が報道された際には報道内容を周知させ自施設での虐待防止の在り方を考えるとともに防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要に応じその都度、説明を行い理解、納得いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	反映できるよう努力している。	入居者の利用料を窓口で支払いに来所された方は意見交換の場と考え思いや意向を聞き話をしている。担当職員が現状報告と共に行事の写真や手紙を送付している。意見箱も設置して要望等の反映に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り等により意見や提案を聞き協議した後、反映できるように努力している。	毎日の申し送りや全体会議、フロア会議を行い年3回の個人面談ではレポートを提出し、問題解決のツールとしている。施設長や管理者は職員とのコミュニケーションを大切に、楽しい職場作りを目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々、職員とのコミュニケーションを図り状況を把握している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後、取り組みを強化していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めているが、更なる強化も必要。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。	病院からの紹介で入居する人が多く、医師や看護師と親しい関係である。高齢になり友人や知人の訪問が少なくなり、孫やひ孫が訪ねて来る事はある。月に1度馴染みの理美容の訪問がある。又留学生が休みに来てくれる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終身のフォローを契約時に約束しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めている。	入居時や面会時に家族から思いや意向を聞きとっている。家族からメールが届く事もある。本人が言えない時はふと漏らした言葉を拾い上げ、表出出来ない人は、日常生活や表情から汲み取り本人本位を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	変化していく状況に合わせ都度内容を更新し作成している。	入居時家族や本人から意見や希望を聞いている。会議や連絡ノートで職員間が共有し話合っている。カンファレンスを基にアセスメントし12か月に1回モニタリングしている。更新時や変化時に見直しプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々変化していく状態などの気付きなど情報を共有し日々のケアの工夫に活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	情報共有をし日々のケアに対応できるよう今後、強化していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月、往診を全利用者が受けている。	元のかかりつけ医から、医療情報や紹介状を頂き、当ホームの嘱託医に変更している。家族や職員は医師と情報を共有し、安心、安全に繋げ往診を受けている。歯科訪問が月2回ある。他科受診は職員が受診介助している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	担当医師と常に連絡を取り支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医との連携が密にされている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来ている。	入居時、重度化や終末期について方針や指針を説明している。基本看取りはしない。病院への案内をしている。常に医師と連携を図り、家族とも話し合い方向性を決めている。同時に特養等の申し込みをする家族もいる。	御本人が重度化した場合。主治医と相談して各々どうするかなど文書化した物を契約書と共に、作成、保管する事をお勧めします。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	努力中。今後、対策強化が必要。	災害訓練が出来ていない部分もあるが、工夫してやっている。2月26日に消防署に届け訓練と各種点検をして貰い、安心安全に繋げている。水やおむつ、食糧等備蓄している。緊急時外部に知らせる為赤色灯をつけている。	火災や自然災害が多発しています。緊急連絡網やグループラインを活用しながら安全安心に努めて頂きたい。4月～BCP「事業継続計画書」の作成が、義務化される事も含め期待しています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な雰囲気大事にしながら、かつ常に相手を尊重した言葉かけや対応を心がけている。	理念に基づき「尊厳の確保」を重視し、言葉かけに配慮し乍ら対応している。トイレ使用時、入浴時にはプライバシーを損ねない様に、言葉掛けに注意している。家庭的な雰囲気を心がけ、想いを尊重できる様にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	支援できている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の思いを尊重し強制のない支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な範囲で対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な範囲での対応はしているが、身体状況の変化もあり厳しくなっている。	食事は職員が手作りしている。農園や菜園で採れた野菜や果物、近所からの差し入れの野菜等を使い献立を作り、調理し、健康面に配慮して提供している。誕生日や歳時記に合わせたおやつ等手作りし美味しく食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日口腔ケアを実施。また、月2回の訪問歯科により指導も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に応じた支援内容を考え実行している。	排泄チェック表から排泄パターンを把握し、声掛け、誘導している。本人の気持ちを大切にプライバシーに配慮した声掛けに努めている。大きな文字で「トイレ」と表示し、場所や位置を示している。自力で行ける人は少ない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた支援内容を考え実行している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に応じた支援内容を考え実行している。	週2回～3回を目安に入浴している。現在は入浴拒否をする人はいないが、出来る限り本人の希望を聞き乍ら、リラックスできる場所として、ゆず湯や菖蒲湯で季節を感じ、楽しく気持ちよく入ってもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じた支援内容を考え実行している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員による服薬の確認を徹底し誤飲や誤薬の無いようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状況に応じた支援を考え対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の状況に応じた支援を考え対応している。	外出が困難になっているが、玄関できれいに咲いた花に囲まれオープンしたカフェで、お茶やおやつを食べ乍ら外気浴を楽しんでいる。庭園等を散策したりお花見を楽しむ事もある。大きな壁画には留学生のネパールの絵が描いてある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持は基本的に無い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な範囲で対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ている。	ホールには加湿器を至る所に配置し、温度や湿度を調節し乍ら気持ち良い環境を作っている。窓から見える景色は、山や川、木々等自然を肌で感じられる。ホールはイベント等の写真が貼られ、思い出に浸りながら、のんびりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の状況に応じた支援を考え対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の状況に応じた支援を考え対応している。	居室の入り口には、入居者の似顔絵が描かれ自分の部屋だと区別できる。職員が部屋の掃除をしたり衣類の入れ替えをし、自分の部屋らしく気持ちよく過ごせる様にしている。転倒防止のため荷物を増やさない様にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状況に応じた支援を考え対応している。		